

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音	ユニット名	1階
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2-22-10		
自己評価作成日	平成25年7月26日	評価結果市町村受理日	平成25年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=2274202502-00&PrefCd=22&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成25年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が心地よく働ける環境作りが利用者様への細かなサービスへ繋がっていくと感じています。ひとつの事でも皆で情報を共有し利用者様一人ひとりに合わせたケアができるように工夫し、ホームの理念のように利用者様と一緒に笑って、その日1日を大事に楽しく過ごせる時間が作れるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

賑わいのある街の一画で、通りからは少し奥まった静かな住宅街に溶け込むように佇んでいる。玄関前に置かれた椅子は利用者や近隣者の癒しの場となり、玄関周辺は野菜や草花が植えられ生活感が漂っている。館内の共有空間には利用者の力作が所狭しと飾られて活気と工夫がうかがえる。1・2階合同で朝の体操やミニ運動会なども行われ交流を楽しんでいる。「職員が心地よく働ける環境作りが、利用者への細やかなサービスに繋がる」と、管理者の細やかな指導と発信は、職員の明るい所作と利用者への対応に繋がっている。書道や貼り絵などの制作意欲や別階へお粥を届けるなど、食事への関りなどと利用者の力の引出しへの取り組みもうかがえる。また管理者の自治会や婦人会との親交の深さは、地域に溶け込むホームとしての役割も担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考え作成した理念をホームに掲げ、毎日申し送り時に復唱し意味合いを意識するように努めています	職員が個々の思いを出し合い2年前に理念が作り変えられた。常に意識し共有と実践に繋がられるようにと、玄関と事務所に掲示し毎日の申し送りで復唱している。ホールの明るい雰囲気から実践への繋がりがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様」と近所のスーパーに行ったり回覧板を届けたり散歩の途中で声をかけられたりと自然体で過ごされています。	ホームの夏祭りに町内の子供たちを招待している。戸外では近隣者と日常的に声を掛け合い支援も受けている。ロコミ情報から町内のバイオリン奏者にボランティア演奏会の要請を行うなど地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催、毎回地域の女性部員の方達が違う方々で参加して下さりホームについて周知して下さる方が増えてきています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの近況報告や避難訓練なども見て頂き地域とつながる意見など頂いています。	町内の各部会の役職者や地域包括支援センターや消防署員などが多数参加し、それぞれが報告と依頼を話合っている。議題薄の時は雑談にもなるが、事業所からは看取りの事例報告も行い取組みへの住民の理解の深まりに努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取りながら協力をお願いしています。	年1回の市の担当者の訪問はあるが、通常は地域包括支援センターとの連携を密にし相談指導や協力を依頼をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に周知し拘束はしていません。	トイレ排泄時の不潔行為者には本人がゴム手袋をはめ排便後の処理を行えるよう働きかけ、拘束用手袋は着用しない。転倒予測者のベッド昇降場に滑り止めマットを敷きセンサーで感知、ベッド柵はない。全職員が周知・共有した拘束ゼロの取組みがうかがえる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同志声を掛け合い相談して防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の個人の必要性に応じて対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面を使用して説明し理解納得された後にサインを頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価年1回、意見箱設置、家族会年1回 面会時に相談などあれば対応しています。	玄関に意見箱が置いているが投函例はない。家族と管理者や職員間のコミュニケーションは取れていて年1回開催の家族会や面会時に直接伝えられる。全職員が共有し苦情解決や問題対応の徹底に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ケア会議を開き意見交換の場とし、以外にも必要性があれば場を開きます。	緊急に話し合いを要する職員を優先に半年に1回職員面談が行われるが、必要性が生じた時は適時話し合いの場を持つ。職員の思いを重ね作り変えた理念などからも職員の意見の反映がうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がホームの現状をしっかりと把握し心地よく働ける環境を整え仕事への意欲を高められるように努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながらHH2級の取得、社内研修への参加、その後ホーム内研修へとつなげていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議、社内研修、ケアマネ講習会、他のホームとの交流研修、地域包括主催の情報交換会などに参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望、訴えを傾聴しプランを立てスタッフが共有し達成できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望に添えるようにコミュニケーションを取りながらプランを立て実施しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との関係づくりに努めながら、その方の思いに繋がれるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご様子を常に観察し職員との会話の中で日々の生活に必要な事柄を見い出しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告やご面会時にご様子などお伝えし記録なども閲覧して頂きます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やお友達のご面会、家族との外食、宿泊など自由にされています。	馴染みの理髪店に行く。3~4人の知人が電車で来所され長時間を入居者と過ごしたり、家族や友人が面会に訪れている。簡易ベッドが用意され家族の宿泊が可能であるなど、さまざまな関係の継続支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の交流を大事にし1.2Fの利用者同士のレクレーションなど実施してコミュニケーションを取ったり、又その方に合わせた生活をして頂きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があれば支援に努めさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様のお話はしっかり傾聴し、ご本人の思いに添えるように努力しています。	職員は日々の生活の中で話や行動、また、家族からの情報をもとに、暮らし方の希望や意向の把握に努め、一人ひとりの特性を掴みそれぞれの接し方で気持ちを満たすよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員同志情報を共有して利用者様の思いを受け止め生活しやすいように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の出来る事、できない事をしっかり把握し御一人おひとりに合った支援をするように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開き、急な変化があればその都度見直し話し合っています。	日常的に利用者や家族の思いや意見を聴くと共に、申し送りや介護日誌、毎月1回のカンファレンスで上がった職員の気づき等を盛り込んで、安全で自立した生活が送れるよう介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録を小まめに記入し情報を共有しながらケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の状況に合わせた柔軟なサービスの対応をさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サレジオ学園の生徒さんの慰問やボランティアの方達の演奏、踊りなど、又夏祭りなどでご近所の子供さんたちも参加して下さいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望があれば、希望のかかりつけに受診されています。以外の方はホームドクターに受診または往診をお願いしています。	月1回の協力医の訪問診療を実施し、週1回の訪問看護を受け、利用者の健康管理を図っている。様態急変時のマニュアルも整備され、適切な医療が受けられるよう家族と協力して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度契約の訪問看護Nsが入り細かな健康チェックや職員への助言を頂いて連携を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と家族も交え情報を得て話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の助言を基にご家族様と今後について話し合い訪問看護師とも相談しご利用者様による良い支援ができるように努めています。	出来ること出来ないことを説明しており、自然な老衰には本人や家族の意向を確認した上で医師の往診や訪問看護師や家族と連携して対応し、看取りの経験もしている。職員間でも方針を共有している。	医療行為を必要としない範囲まで、ということを家族に伝えているが家族や関係者と十分に話し合い理解を得る働きかけを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護へのオンコール、主治医への連絡、救急車の要請など緊急時のマニュアルを作成し適切な対応ができるように努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム防災委員が中心となり委員会を開き偶数月の訓練実施、消防への相談など対策を考えながら行っています。	年1回の防災訓練や、偶数月には避難訓練を実施している。地域の防災訓練に利用者も参加し、相互協力体制も着実に築かれ、災害時には一時避難場所として施設を提供することを申し入れている。	訓練後の車椅子での移動が困難だという課題をどのように対策を講じることができるか、また地域住民のホーム受け入れの際の備蓄についても話し合い記録に残すことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは常に意識して丁寧な言葉使いに気を付けていますが慣れ親しんだ方に「ちゃん」付けで声をかけてしまう時があります。	職員は利用者一人ひとりの理解に努め、プライバシーを損ねる事のないように言葉掛けは丁寧でやさしく、良いコミュニケーションが取れている。本人本位を心掛けて生活している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを聞きだし「散歩」などのお誘いもご自分で決めて頂きます。入浴に関しては清潔面での配慮も考え根気よく声掛けなどします。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなくご利用者様の意思を尊重して心地よい時間を過ごして頂きます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身綺麗な服装を心がけ御自分で選択できる方には必要であれば後でフォローしていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきやおネギの小口切りなどできる方には手伝って頂き食事の片づけは毎日して下さる方がおられます。食べやすいようにその方に合った食器や食材の切り方にも工夫しています。	季節感があり、好みを含めたメニューで楽しい雰囲気の中で食事が出来、食器洗いの役割も生き生きと担っている。体調不良や嚥下困難な利用者にはとろみをつけるなど適切な摂取支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取の難しい方にはNsとも相談し栄養補助食品などで対応しています。寒天ゼリーを使いポカリなどで水分ゼリーを作って補給に工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施しています。入れ歯洗浄、うがい等その方に合わせて介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの排泄リズムを把握し声掛けをして誘導などしています。安全の為に二人介助の方もおられます。	チェックシートにより、自尊心に配慮した声掛けでさりげなく誘導している。トイレでの排泄や排泄の自立に向け工夫を試みている。夜はおむつを使用しても昼間はリハビリパンツで対応できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認し便秘薬服用の前に、乳製品やセンナ茶、水分ゼリーなどで対応しコントロールしていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全の為に二人介助で実施の方、曜日を決められて必ず入られる方などご希望に添っています。拒否のある方には間があまり空かない状態でアプローチしていきます。	入浴は利用者の希望に合わせて午前と午後に分け、週3回程度を目標に個々に沿った支援をしている。風呂嫌いの利用者の誘導成功例も聞かれ気持ちよく入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静養の必要な方、居間でくつろぐ方、其々の方に合わせて過ごして頂いたり、夜間もラウンドで体位交換しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方後、変更があれば申し送り、職員の周知を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアの行事、買い物外出、外食など実施週3回ビール飲まれる方もおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩は心がけ近隣を歩いています。花菖蒲、日本平など状況を見てドライブにも出かけます。個人の買い物など必要時にショッピングセンターなどへも行かれます。	日常的に散歩や近くのスーパーに買い物に出掛けている。近隣の住民との語らいや触れ合いなどを通じて楽しい暮らしの支援をしている。初詣、出初式、花見や動物園、ドライブや外食等、季節の行事を楽しむ機会も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて全員のお金を管理しています。ご本人の希望があれば職員と一緒に買い物などに出かけますがご本人が所持することはありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望があれば電話や年賀状などの対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清掃を小まめに行い夜勤者が夜、モップ掛けをし、汚れているときは、その都度、利用者様に切って頂いたウエスで拭いています。利用者様の作成したちぎり絵などで季節感も感じられます。	居間や食堂のあるフロアは広々としてソファや畳の空間が用意され整理整頓されている。利用者の特技や持ち味を出した貼り絵や習字が壁いっぱい飾られている。利用者と職員の信頼しあう生活の中、心豊かな場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にベンチを置き寒い時には日光浴をし季節に応じて使用しています。居間にはソファを置き足を延ばしてゆったりして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の担当が出勤時には必ず居室の清掃をお実施することになっていますが汚れに気づけばその都度実施します。馴染みの家具などは個々でお持ち頂いています。ご家族用の簡易ベベットはご用意しています。	居室は広く家族の泊まりにも対応できる。備え付けクローゼットに洋服や日用品が入れられ、家族の写真や仏壇・タンス・テレビ・ソファ等、本人の使用していた物が持ち込まれ居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所や脱衣所など安全の為に椅子を置いてあり、個々の物わかりやすく置いてあります。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音	ユニット名	2階
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2-22-10		
自己評価作成日	平成25年7月26日	評価結果市町村受理日	平成25年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202502-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成25年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が心地よく働ける環境作りが利用者様への細かなサービスへ繋がっていきと感じています。ひとつの事でも皆で情報を共有し利用者様一人ひとりに合わせたケアができるように工夫し、ホームの理念のように利用者様と一緒に笑って、その日1日を大事に楽しく過ごせる時間が作れるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考え作成した理念をホームに掲げ、毎日申し送り時に復唱し意味合いを意識するように努めています	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様」と近所のスーパーに行ったり回覧板を届けたり散歩の途中で声をかけられたりと自然体で過ごされています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催、毎回地域の女性部員の方達が違う方々で参加して下さりホームについて周知して下さる方が増えてきています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの近況報告や避難訓練なども見て頂き地域とつながる意見など頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取りながら協力をお願いします。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に周知し拘束はしていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同志声を掛け合い相談して防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の個人の必要性に応じて対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面を使用して説明し理解納得された後にサインを頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価年1回、意見箱設置、家族会年1回 面会時に相談などあれば対応しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ケア会議を開き意見交換の場とし、以外にも必要性があれば場を開きます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がホームの現状をしっかりと把握し心地よく働ける環境を整え仕事への意欲を高められるように努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながらHH2級の取得、社内研修への参加、その後ホーム内研修へとつなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議、社内研修、ケアマネ講習会、他のホームとの交流研修、地域包括主催の情報交換会などに参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が安心してできるようにご本人の訴えを傾聴して対応しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に不安を感じさせないように、お話しする機会を増やし信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の要望をお聞きしサービス対応を考えていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で日常生活を共にし、職員と馴染みの関係を作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの情報を共有して一緒に利用者様の生活を考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会、外出などはご自由にして頂けます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の人間性を大事にして利用者様同士の関係がスムーズにいくように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりのお話を傾聴し思いを把握できる様に努め又、行動などからもくみ取れるように職員同志で話し合っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に今までの生活環境などをフェイスシートなどで把握しご家族の面会時などにも情報を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や関わりを通してその方の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開き職員同志話し合う事が出来ています。変化が見られた場合はすぐに話し合いケアの方法を改善していきます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に関わりや気づきを記入しそれを見直すことで職員間で連携が取れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何か状態に変化があればその都度話し合い柔軟な支援、サービスに取り替わっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サレジオ学園の生徒さんの慰問やボランティアの方達の演奏、踊りなど、又夏祭りなどでご近所の子供さんたちも参加して下さいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望があれば、希望のかかりつけに受診されています。以外の方はホームドクターに受診または往診をお願いしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度契約の訪問看護Nsが入り細かな健康チェックや職員への助言を頂いて連携を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と家族も交え情報を得て話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の助言を基にご家族様と今後について話し合い訪問看護師とも相談しご利用者様による良い支援ができるように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護へのオンコール、主治医への連絡、救急車の要請など緊急時のマニュアルを作成し適切な対応ができるように努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム防災委員が中心となり委員会を開き偶数月の訓練実施、消防への相談など対策を考えながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは常に意識して丁寧な言葉使いを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や外出など、ご本人に確認し意思を伺います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望は可能な限り業務優先にならないように優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で衣類を選べる方をお願いし身だしなみは職員が気配りをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はほとんど職員がしてしましますがネギの小口切りや野菜のスライスなどできる方をお願いし、片づけは半分くらいご利用者様に手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を参考にし増減に対応し水分ゼリーや好みの物などをお出しして工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施しています。ご自分で出来る方をお願いしています。夜はポリデントで消毒をします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のペースに合わせて声掛けや誘導をしています夜間は利用者様に合わせてポータブルトイレを使用するなどの工夫をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食事は食物繊維を含む物を調理し便秘予防として寒天の水ゼリーやセンナ茶で対応し便秘時は処方便秘薬でNsと相談しながら実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせてと心がけていますがアプローチの難しい方は清潔を保てるように間隔が空かないように声掛けの工夫や気をそらしながらなんとか入って頂く時もあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の利用者さんの体調に合わせて静養などして頂いたり就寝時は気持ちが安らぐように声掛けをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方後夜勤が薬表を確認、配薬し服薬時にご本人の名前を声を出して確認してから飲んでいただきます。体調の変化があればDrの指示を受けます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、参加して下さる方々で1,2階の交流を兼ねて2階でラジオ体操を行い体を動かしたり家事のできる方は手伝って頂きイベントなどの外出もされています。週に3回ビールを飲まれる方もおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先での日光浴やラジオ体操、おやつを食べたり、近所のスーパーへ出掛けたり近隣の散歩も出かけ近所の方々との会話もされます。ご家族が来られる方は一緒に外食に出かけたり自室でお食事などもされます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて全員のお金を管理しています。ご本人の希望があれば職員と一緒に買い物などに出かけますがご本人が所持することはありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望があれば電話や年賀状などの対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清掃を小まめに行い夜勤者が夜、モップ掛けをし、汚れているときは、その都度、利用者様に切って頂いたウエスで拭いています。利用者様の作成したちぎり絵などで季節感も感じられます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にベンチを置き寒い時には日光浴をし季節に応じて使用しています。居間にはソファを置き足を延ばしてゆったりして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の担当が出勤時には必ず居室の清掃をお実施することになっていますが汚れに気づけばその都度実施します。馴染みの家具などは個々でお持ち頂いています。ご家族用の簡易ベベットはご用意しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所や脱衣所など安全の為に椅子を置いてあり、個々の物もわかりやすく置いてあります。		